

# 牛久沼今昔 第四話

牛久市文化財保護審議委員

栗原 功くりはら いさお

## 代官頭(のちの関東郡代)伊奈忠次・忠政・忠治による管掌③

利根・毛野(鬼怒)両川流路変更と相馬二万石・谷原三万石新田開発と牛久沼沼域確定

忠次の関東八カ国巡検に基づく遠大な普請(治水)

— 家康の同普請着工決裁 —

徳川家康は豊臣秀吉政権下で、関東280万石余に国替えとなり、天正18年(1590年)8月に江戸城に入城した。

一方、家康に代官頭(江戸幕府での役職名は関東郡代)に任ぜられた伊奈忠次は、直ちに、管掌する関東八カ国全域の巡検に出た。巡検の主たる目的は検地であったが、外に地勢土地の高低・起伏の状態や山・川・平野などの形勢)検分と数多の領民の訴えを聴くことであった。巡検の成果を踏まえて忠次は遠大な普請設計を家康に示し、その施工の決裁を得た。北関東における普請施工の主なもの、利根川流路変更、毛野川(鬼怒川)・小貝川分流、常総谷原の新田開発であった。この段階で忠次に牛久沼内にかこい2000問堤(土手)築堤の構想は全く

なかった。

利根川流路(東流へ)変更と毛野川(鬼怒川)・小貝川分流

利根川は上野国(現群馬県)の丹後山(みなかみ町)付近に源を発し、本流は武蔵国(埼玉県・東京都)内を流れ江戸(東京)湾に注いでいた。

文禄3年(1594年)、家康の四男、武蔵国の忍城(現埼玉県行田市)城主松平忠吉は、筆頭家老小笠原三郎左衛門に埼玉郡上新郷(現羽生市)の北で二派(利根川と会の川)に分かれていた一方の、会の川を同郡本川俣村(現羽生市)で締め切る普請を命じた。この普請には、忠次が伊奈家相伝『伊奈流(関東流)』治水工法をもつて技術面での指導にあたったようだ。

これが端緒となつて、利根川の流路を、(東流へ)変更する一連の大普請が、忠次、忠政、忠治三代にわたる総指揮の下で施工された。27年後の元和7年(1621年)に至つて、武蔵国の埼玉郡下に新川通が開削(現在の北川辺町と大和町の間を通る)され、これに継がる下総国猿島郡境村へ現茨城県猿島郡境町と下総国葛飾郡関宿へ現千葉県野田市との間付近で、赤堀川(開削時は備前堀といひ、度々拡張されて

いる)が開削され、そのあたりで、利根川と常陸川が接続して、太平洋に注ぐ利根川が概ね今日の流路となった。もう一方、下野国(現栃木県)の山間に源を発する毛野川(鬼怒川)と小貝川が合流(筑波郡寺畑村へ分流で細代村が分村)は両川に挟まれていた)していたのを、大木の開削で分断、その前後の新たな諸河川開削によつて概ね寛永7年(1630年)には分流された。

谷原三万石・相馬二万石の新田開発

利根川の流路変更(東流)と鬼怒川・小貝川分流および関連する諸整備によつて、忠次が計画していた、小貝川沿いの『谷原』と呼ばれる葦や真菰が生い茂る湿原地帯の新田開発の普請着工が可能となり、忠治総指揮の下で、後世に小貝川三大堰と称される、福岡堰(旧谷和原村内)・岡堰(旧藤代町内)・豊田堰(現龍ヶ崎市内)が設置され、寛永2年(1625年)か

ら同19年の間に、谷原に5万石の新田を造成することができた。谷原5万石の内訳は、一方は常陸国筑波郡下70カ村外(旧谷和原村の大部分と旧伊奈町の一部外)3万石余で、もう一方が下総国相馬郡下32カ村外(旧藤代町の大部分と旧取手市の一部外)2万石余であった。

| 当主名        | 代官頭・関東郡代在職期間                      |
|------------|-----------------------------------|
| 伊奈忠次(備前守)  | 天正18年(1590)8月～慶長15年(1610)6月13日    |
| 伊奈忠政(筑後守)  | 慶長15年(1610)6月13日～元和4年(1618)3月10日  |
| 伊奈忠治(半十郎)  | 元和4年(1618)3月11日～承応2年(1653)6月27日   |
| 伊奈忠勝(半左衛門) | 承応2年(1653)12月22日～寛文5年(1665)8月14日  |
| 伊奈忠常(半十郎)  | 寛文6年(1666)3月19日～延宝8年(1680)1月4日    |
| 伊奈忠篤(半十郎)  | 延宝8年(1680)9月7日～元禄10年(1697)10月19日  |
| 伊奈忠順(半左衛門) | 元禄10年(1697)12月10日～正徳2年(1712)2月29日 |
| 伊奈忠達(半左衛門) | 正徳2年(1712)5月26日～寛延3年(1750)7月30日   |
| 伊奈忠辰(半左衛門) | 寛延3年(1750)7月30日～宝暦4年(1754)9月5日    |
| 伊奈忠宥(備前守)  | 宝暦4年(1754)9月5日～明和6年(1769)12月7日    |
| 伊奈忠敬(半左衛門) | 明和6年(1769)12月7日～安永7年(1778)3月12日   |
| 伊奈忠尊(撰津守)  | 安永7年(1778)6月6日～寛政4年(1792)3月9日     |

代官頭・関東郡代を勤めた伊奈家歴代

- 図説伊奈町のあゆみ(つくばみらい市発行)より引用 -